



月刊

オリーブ

2024

7

Vol.110

— 真の更生を目指して —

洗礼式と総会を終えて

洗礼式 6月1日

オリーブの家は緑に囲まれた静かな場所に位置しています。その駐輪場に大型のプールを設置して、40名の立会人が見守る中、洗礼式が行われました。今回は4名の受洗者でしたが、お一人おひとりの信仰告白を聞いて、彼らの人生に思いを馳せました。今日ここに至るまでの皆さんの歩まれた道が、いかに困難なものであったかを肌で感じることができました。

洗礼はキリスト教の聖霊典で、それはキリストの「死と復活」と一体化することを象徴しています。ですので、通常の形式では、受洗者は全身を水の中に沈めてから引き上げられます。自分はイエスキリストを信じた。あるいはイエスキリストと一つになったということを表現するのが洗礼です。オリーブの家のファミリーの洗礼式はさらに意味が深いと思っています。お一人おひとり、自分の過去を振り返り、信仰に至る証をしてくれますが、その証は一般の方とは異なり深い深い闇からの生還があります。

ですから聞く者の心を大きく揺さぶり感動を与えます。

私もそうでしたが、水から上がった時、何とも言えん感動を覚えました。私達が日頃行っている集会や洗礼式はキリスト教の信者を増やす事を目的としているわけではありません。二度と罪を犯させない、被害者を産まないことが第一の目的でなければならぬのです。その決意の証の場が洗礼式なのです。

役員会・総会 6月2日

コロナ禍が下火となった昨年より役員会・総会をリアルで始めましたが、今年も顔と顔を合わせ忌憚ない意見交換ができました。昨年9月15日のお墓建立、10月22日納骨式のご報告と、新年度の取り組みとしてはグループ・ホームの拡充と自立準備ホームの別施設での確保が議題に上りました。

それは経営基盤を固める事が真の目的です。設立10年目を迎えて様々な問題も確認できました。グループ・ホームへの予算削

減等現実の厳しさに向き合っていかなければ乗りきる事はできません。それでオリーブの家では一つの目標を掲げました。現在はNPO法人オリーブの家ですが、準備期間を半年間設けて、認定NPO法人を目指すことといたしました。

認定特定非営利活動法人制度（認定NPO法人制度）は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられた制度です。取得には、認定基準実績判定期間内の各事業年度中に3千円以上の寄付者の数が、年平均百人以上であることが求められています。

新年度はこのような難しい問題を抱えてのスタートとなりました。先日の集会で右記の絶対的基準のお話をしたところすでに多くの賛同者が与えられています。これからもオリーブの家は福祉活動に邁進する所存であります。今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。



オリーブの家
理事長
青木康正



ファミリーの声

洗礼式を終えて

皆様のおかげで無事洗礼式を終えることができました。当日はたくさんの方々に見守られ緊張はしたものの、証文も何とか読み終えることができました。青木理事長や他のメンバーの方々と聖書やキリスト教に関する学びを積み重ねていく中で、私自身新しく生まれ変わりたいという内なる要求が強くなっていくのを感じていました。学びが浅い私が洗礼を受けることに戸惑いもありました。しかし皆様の温かさや熱心さに心を打たれ、新しく生まれ変われるなら今しかないと思いい決心をいたしました。今までの過去や自分自身と決別し、新しく生まれ変わって自分の人生を生き直す。「今からここから自分から」その言葉を胸に、私の再スタートが始まります。キリスト教、神との出会いも必然のものだと考え、私に与えられたチャンスだと思えるようになりました。

ここから私の本当の意味での再スタート再チャレンジだと感じています。他人と過去は変えられないが、未来と自分を変えられると信じ、私の一歩を、ここから踏み出そうと思っています。神の祝福を信じて！

Y・Y

ハレルヤ！

私は家庭内暴力が原因で精神科に長く入院した経験があります。入院を繰り返し退院しましたが姉の紹介でオリーブの家の礼拝に出席するようになってからは徐々に生活のリズムが整ってきました。退院の話もありましたが母は施設に入っていましたし、高齢の父は面倒が見れないと長く反対意見でした。オリーブの家での交流がきっかけで、オリーブの家が引き受ける事で父も納得し精神科から退院する事ができました。定期的な聖書の学びを通して姉が信じるイエス様に全てを委ねる決心をいたしました。

今は毎日平安に生活ができています。今後は両親への感謝、そして常

にサポートしてくれている姉に恩返しができる人間に生まれ変わっていきます。オリーブの家の皆さんありがとうございました。神様に感謝です。

本園久博

感謝

ここ数年、急に体調が悪くなり体の衰えに不安を感じるようになりました。人間いつかは死ぬ。昨年のもう月14日に、オリーブの家のファミリーで仲の良い人が亡くなり人の死を真剣に考えるようになりました。自分は死んでからどうなるのか？今までは考えもしなかった事を、夜、寝る前に考えるようになり、オリーブの家で聖書に触れてみたいと思うようになりました。

つい先日福音の三要素を初めて自分事として真剣に受け止めることが出来ました。私は散々家族に迷惑をかけ子供に愛情を注ぐことが出来ていませんでした。この罪深い私をイエス様は身代わりとなって死んでくださり、聖書に書いてある通りに墓に葬られ、三日目に復活されました。

オリーブの家に来て、私は救われました。福音の三要素を信じます。これからは道を外さないように神様を畏れて、神様を畏れる人のそばにいて、生きて行きます。

山木敬介

受洗後の私

オリーブの家、聖書を学び、この度の洗礼を受け生まれ変わることができました。これまでの私は、自分で考え行動し、様々な選択をしてきましたが、失敗の連続でした。苦難の続きで未来が見えない。自分自身が腐っていくのを止める事ができません。そんな罪深い私をイエス様は救ってくださいました。今は喜びの毎日です。

私、「小郷康之」は、過去の自分を全て主に委ね、そして私を導いてくださる聖霊さまと聖化の道を歩む事を誓います。

小郷康之

受洗前の証もそうですが受洗後のそれぞれの思いが伝わる感想文となっています。今までは辛い日々でしたがこれからは兄弟として共に歩みましょう！

青木康正

支援者からの

寄稿



東日本大震災から熊本大会まで

日本グループホーム学会

仙台大会事務局

横谷 聡一

4. 日本グループホーム学会仙台大会

日本グループホーム学会仙台大会は2017年に開催されました。北海道から沖縄まで約530名の参加があった会場は大変な熱気で溢れました。前年の沖縄大会で「入居者の思いを大切にしたい大会」とグループホーム入居者の声があり、仙台は「入居者を中心とした暮らしグループホームの原点とは」との大会テーマとなりました。大会の冒頭では「仙台によるこそ」の思いを含むオリジナル曲を披露したり、サックスの独奏をする入居者がオーブニングを務め、会場は大いに盛り上がりました。プログラム1日目は「四半世紀を超えたグループホームを考える」とのテーマで浅野史郎さんの基調講演から始まり、初日最後に

「グループホームの暮らしとかなえない夢は」とのテーマで入居者が互いの夢を語る時間があり、「グループホームの暮らしをふたたび」とのテーマで東日本大震災、熊本地震などを中心としたパネルディスカッションが行われました。

2日目の入居者大集合には約130名の参加があり、全国の入居者の交流が広がりました。同日開催の講座では大熊由希子さんの講演、鼎談で締めくくられ、「入居者を中心に」とのテーマのもと「現場に役立つ学びができた」「知り合った方々と語り合う機会になった」との声が聞かれる中、仙台大会が無事に終了しました。

仙台大会事務局のお話が来たときは不安もありましたが、東日本大震災で全国からの支援もあり「恩返ししたい」との思いからお受けすることになりました。少人数の有志の大会事務局でしたが、当日の人手が必要なこともあり、つながりのなかった地元福祉団体に思いが伝わり、ご協力を得ることが出来ました。

個人的なことですが、この時期、父の危篤の知らせがあり、大会準備中に看取りがありました。父の回復を天に祈り、聖書に出会い、本当の神はここに居るのだとの確信をもつことができ、今に至ります。神とのつながり、隣人とのつながり、皆さまにとって大切なつながりとはどんな「つながり」でしょうか。

次号では、熊本地震の現地のグループホームを訪問し、研修会を開催したときのことをお伝えします。災害直後、熊本の方から初めての災害に戸惑う声が多くありました。東日本大震災の時の仙台の現場も同じでした。

熊本での大会を本年開催するにあたり、オリーブの家が大会事務局を引き受けてくださり心から感謝しております。大会の詳細が決まり次第、本紙でお伝えしたいと思います。

横谷 聡一

よこや・そういち



1972年生まれ。1998年より精神障害のある方々の支援に従事。宮城県仙台市で障害福祉サービス事業（グループホーム、生活介護、就労継続支援B型）を運営する社会福祉法人みんなの広場の理事長、総括所長をつとめる。
東北福祉大学卒業、日本グループホーム学会副代表、日本グループホーム学会仙台大会事務局長、仙台市グループホーム連絡会副会長、東北福祉大学特別講師。2020年ハーベスト聖書塾を卒業（第39期生）。



オリーブの家で 見つけた笑顔



令和6年度の理事会総会の前日、駐輪場に大型プールを用意して洗礼式が行われました。

この日を迎えるにあたっては施設の清掃片付けにスタッフはもちろんのことファミリーの皆さんも頑張ってくれました。さっぱりときれいになったところに皆さんをお迎え出来ました。

40名ほどにもなった参加者は、遠くは沖縄、東京、大阪から。九州でも地元熊本はもちろん、門司港、福岡、長崎からとかけつけてくださり大盛況となりました。洗礼式が終わり、プールを囲んで皆さんで賛美をしましたが、その声はうねりのように天高く力強く私たちを包み祝福された時となりました。

副理事長 小原順子



夕方からの感謝会。ライトアップされた熊本城をバックに皆さんの笑顔が素敵です。

2024年3月～5月会計報告

		3月	4月	5月
月次自立準備支援人数		5名/6室	4名/6室	4名/6室
グループホーム利用者数		8名/8室	8名/8室	8名/8室
累計ファミリー数		159名	160名	160名
収入	自立準備ホーム	546,610	662,904	784,528
	献金	701,324	734,160	1,753,000
	グループホーム	2,023,877	1,630,254	1,492,520
	その他	278,295	119,261	95,263
収入合計		3,550,106	3,146,579	4,125,311
支出	家賃	501,600	457,600	488,600
	水道光熱費	198,384	184,125	179,920
	食費	411,532	379,946	398,050
	人件費	2,057,589	2,043,786	1,943,840
	活動費	83,011	59,384	333,074
	その他経費	383,270	544,786	548,276
支出合計		3,635,386	3,669,627	3,891,760
収支合計		-85,280	-523,048	233,551

前月繰越現金預金残高	4,494,612	4,828,707	3,516,970
翌月繰越現金預金残高	4,828,707	3,516,970	4,844,583
施設準備積立金残高	2,800,093	2,850,093	2,900,093

※ 活動費には、理事会参加旅費4名分194,045円が、その他経費には、食堂にセミナーにも利用できる大型テレビ購入代として79,990円、自動車税45,200円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
6月1日(土)にオリーブの家で洗礼式の司式を執り行いました。人はいつでもやり直すことができる。確かにその通りですが、人は内側から変えられないと変わらないのも事実です。とかく私たちは、自分の力で人生を切り開こうとします。それも大事ですが、その前に大切なことはしっかりと神に土台を据えることです。そして的外れにならないよう互いの祈りのサポートが必須です。いつもご支援をありがとうございます。
副理事長 永山 太

銀行振込

肥後銀行(銀行コード:0182)
京町支店(支店コード:156)
口座番号:(普通)1574408
口座名義:NPO法人オリーブの家
トクヒ オリーブノイエ

郵便振替

銀行名:ゆうちょ銀行(金融機関コード:990)
口座番号:17180-5444801
口座名称(漢字):NPO法人オリーブの家
口座名称(カナ):トクヒ オリーブノイエ
(他銀行からお振込の場合は)
店名:七一八(読み:ナナイチハチ)
店番:718
口座番号:(普通)0544480



月刊オリーブ
2024年7月1日発行
(毎月1回発行) 第110号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<http://seishoforum.net/olive-house/about/>

